平成25年度教育研究活動報告書

氏　名	寺杣雅人	所　属	芸術文化学部日本文学科
学　位	修士（文学）	職　位	教授
専門分野	日本近現代文学、日本語韻律論		

Ⅰ　教育活動	
本年度担当科目	
学　部	日本文学史Ⅴ（近代） 日本文学講読Ⅴ 日本文学講義Ⅳ 日本語表現法（前期） 日本語表現法（後期） 近現代文学専門演習Ⅲａ 近現代文学専門演習Ⅲｂ 卒業論文指導（構想・準備） 卒業論文指導（制作） 文芸創作入門Ⅱ（オムニバス） 尾道学入門（オムニバス） 文化財学（授業責任者）
大学院	日本近代文学特講 日本近代文学演習 日本語音律特論 日本文学・言語文化総論（オムニバス） 修士論文研究指導

Ⅱ　研究活動
これまでの主な研究業績（5件まで）
（1）〈論文〉等時音律説試論―定型詩歌はどう読むべきか―（『文学』第46巻第2号、1978年2月）
（2）〈論文〉ことばと韻律について―日本詩定型論異見―（『研究紀要』第31集(2)、尾道短期大学、1982年10月 ）
（3）〈著書〉 五音と七音のリズム―等時音律説試論（南窓社、2001年3月）
（4）〈学会発表〉「謙作の追憶」と「暗夜行路」序詞―志賀直哉における本文の形成―（全国大学国語国文学会、2006年12月）
（5）〈論文〉宮沢賢治「どんぐりと山猫」考―論理的分析の試み―（『尾道大学芸術文化学部紀要』第8号、尾道大学芸術文化学部、2009年3月）
本年度を含む過去3年間の研究業績
（1）〈論文〉「暗夜行路草稿４」の影印と翻字（『尾道文学談話会会報』第2号、1-41頁、2011年12月20日）（平成22年度3年ゼミ生（大出奈奈、貝原和紗、佐々木名穂、立町智恵、宮本奈菜、渡邉春来）との共著）
（2）〈論文〉梅林の一句から―詩形について考える―（『尾道文学談話会会報』第2号、53-66頁、2011年12月20日）（単著）
（3）〈論文〉志賀直哉『映山紅』所収作品の本文―「真鶴」他四編の最終稿を求めて―（『尾道大学日本文学論叢』第7号、105-125頁、尾道大学日本文学会、2011年12月31日）（平成23年度3年ゼミ生（安達智美・熊渕沙耶・新宅 綾・南堀明希）との共著）
（4）〈論文〉志賀直哉「城の崎にて」の最終稿―『映山紅』所収「城崎にて」の本文と注解―（『尾道大学芸術文化学部紀要』第11号、83-94頁、尾道大学芸術文化学部、2012年3月30日）（単著）
（5）〈論文〉「清兵衛と瓢箪」の舞台はどこか―本文からの検証―（『尾道文学談話会会報』第3号、61-66頁、2012年12月20日）（単著、既発表論文を追補改作）
（6）〈論文〉千光寺山の一首から―再び詩形について考える―（『尾道文学談話会会報』第3号、67-83頁、2012年12月20日）（単著）
（7）〈論文〉志賀直哉「城の崎にて」の変容―初出本文から九巻本全集所収本文まで―（『尾道市立大学日本文学論叢』第8号、71-95頁、尾道市立大学日本文学会、2012年12月31日）（平成24年度3年ゼミ生（泉理沙、宇田香織、小平田亜弥、三浦友也、武藤孔一、森藤優花、山田やよい）との共著）
（8）〈論文〉 「等時音律説」の基底―日本詩歌の理解のために―（『尾道市立大学芸術文化学部紀要』第12号、59-70頁、尾道市立大学芸術文化学部、2013年3月31日）（単著）

（9）〈その他〉志賀直哉の尾道時代（『中国新聞』コラム「緑地帯」、①～⑧、2013年11月30日～12月10日、8回断続連載）	
（10）〈論文〉 志賀直哉「清兵衛と瓢箪」の深層―「暗夜行路」との関わり―（『尾道文学談話会会報』第4号、1-19頁、2013年12月20日）（平成25年度3年ゼミ生（五十嵐景子、荻巣健人、瀬島紘久、中村綾子）との共著）	
（11）〈論文〉 吉備の中山の一首から―三たび詩形について考える―（『尾道文学談話会会報』第4号、91-96頁、2013年12月20日）（単著）	
（12）〈論文〉 林芙美子の書簡一通と注解（『尾道市立大学日本文学論叢』第9号、207-218頁、尾道市立大学日本文学会、2013年12月31日）（単著）	
（13）〈論文〉続・「等時音律説」の基底―日本詩歌の理解のために―（『尾道市立大学芸術文化学部紀要』第13号、97-104頁、尾道市立大学芸術文化学部、2014年3月31日）（単著）	
（14）〈その他〉 志賀直哉の尾道時代（一）（『尾道文化』第32号、11-21頁、2014年3月31日）（単著）	
（15）〈著書〉「等時音律説」入門（尾道市立大学芸術文化学部日本文学科、B6版２05頁、2014年3月31日）（単著）	
現在の研究テーマ（3つまで）	
（１）志賀直哉研究	
（２）日本詩歌の韻律研究	
（３）宮沢賢治研究	
研究テーマの進捗状況	（３）は校務多端で手が付けられず。（３）以外はだいたい順調に推移している。（１）は特に本文研究および直哉と尾道の関係を明らかにすることに意を用いた。（２）については、昭和５３年に提示した日本詩歌の形態に関する仮説「等時音律説」の基底となる部分を改めてわかりやすく提示することに努めた。それは「「等時音律説」の基底」と「続・「等時音律説」の基底」で行っている。（１）（２）の成果は順次公表している。
学会、所属団体における活動　（本年度を含む過去3年間の研究業績）	
所属学会・所属団体　役職等	
尾道市立大学日本文学会（会長）　全国大学国語国文学会　計量国語学会	